

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第155号

-環境・農業・食べ物など情報の交流誌-

2005.03.24 (木) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の  
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

[http://www.taiyo-c.co.jp/public\\_html/yamazaki/yama\\_index.htm](http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_index.htm)

\*\*\*\*\*発行部数 1431 部\*\*\*\*\*

---

□ 目次 □-----

<今週の提言> 宣伝のマジック 安富六郎

<旬を食べるー野良からの便り・20> “芹(セリ)” 小泉浩郎

<読者の声> 紀平さんから; 藤原さんから

<山崎農業研究所情報>

◇第116回定例研究会ー耕地としての土と作物ー速報(その2)

2. 農業の持続可能性を土からみると

ー元茨城大学教授 岩田 進午氏

<80才からのメッセージ> 超高齢を目指していかに生きるか 原田 勉

<日本たまご事情> コレステロールはやや高目が長生きする 齋藤富士雄

<高齢者の健康情報>

長寿社会を生き抜くために【1】家族・友人・隣人-社会面から- 原田 勉

<ミニ解説> 農業・農村の組織とその役割(6)ー土地改良区ー 石川秀勇

<推薦図書> 詩集『地球の影が横切ってゆくとき』(山根千恵子著)

<編集後記・同人の近況報告> 3月10日ー3月23日

---

<今週の提言> 宣伝のマジック

---

テレビでラーメンの広告を見て旨そうだと思いきみ、さっそく買って試食した。しかし何の変哲もない、ただのラーメンだ。また近くに旨い食い物屋があるというので行って見たが、若向きでとても口に合わない。なぜ、こんな宣伝にのるのであろうか、我が身を省みて、苦笑する。時代が違うのであろう。だが、このような、たわいもないことであれば、まだよい。

もしも報道が規制されたら、一方的な宣伝ばかりが世にはびこるだろう。戦争体験者として、われわれは戦時中の政府や大本営発表に踊らされた苦い経験

を思い出すのである。

いまでも世論調査には納得いかぬことが多い。なかでも電話アンケートの結果ほど怪しいものはないと思っている。アンケートに協力した人、しなかった人では母集団が大きく異なることだってありうる。その回答数や比率だって問題であろう。結果をうまく使えば世論操作だって出来るだろう。

金でなんでも買える世の中では、真実が覆い隠されやすい。反対意見は買収され、従わなければ圧力も辞さない。たとえばイラクの報道の大部分が、欧米系またはそれに関連した英語の通信社などの、少数のお墨付きニュースソースから発しているといわれる。現地市民の声は聞こえてこない。現地語を知らなくても、英語のみで取材出来るといわれている。これでは報道が欧米寄りになるのはあたりまえであろう。

一方、ニュースソースの多様化が進み、企業や行政の都合の悪いことも明るみに出てくる。権威あるところも、虚勢が次第に露呈してくる。この中で、小さい草の根運動はニュースの虚構性をはがすのにも重要な働きをしている。情報の質は玉石混在ではあるが、インターネットがその大役を演じている。この場合、読者の正しい判断が必要となるが、この多様化が社会の正しい方向を決めるように思われる。

BSE問題の雲行きが次第に怪しくなっている。やがてアメリカ牛肉に限り安全であるというような世論操作だって懸念される。多くの情報を開示して納得のいくようにしたい。宣伝やニュースの「独占」も「多様化」も、いずれも両刃の剣である。これを正しく使うことがいま問われている。

安富 六郎

山崎農研会員・電子耕編集同人

y.nouken@taiyo-c.co.jp

---

<旬を食べる一野良からの便り・20> “芹（セリ）”

---

日差しが明るさを増しているが、まだ、頬を撫でる風は冷たい。田んぼのあぜ道に、2つ、3つと屈み込み背を丸くした人影がある。早春の芹摘みである。

朝夕の寒さに耐えるかのように、しっかりと根を張り、数枚の葉を横に広げ土のぬくもりを全身で受け止めている。冬を耐えた紫色の葉は、少しずつ緑を増し、中心の若い芽は、ひときわ生々としている。

葉を痛めないよう、根を切らないように、まだ数ミリもない茎に細心の注意をして包丁を入れる。茎の上を切れば、葉はバラバラになり、下を切れば根を痛めてしまう。野生の誰のものでもない食べものでも、そんな心遣いをして再生の助けをした。

摘み取った芹は、ゴミを拾い、枯れ葉を除き、水に 30 分ほど浸す。凍えるように小さくなっていた芹は、手足を伸ばしお互いが絡み合い、元気を競うように水の中で賑やかになる。

芹摘みの風情は、やはり、あぜ道や田んぼに自生するこの数センチの芹（田芹）摘みだが、小川やため池の水辺には、同じ芹が 10 センチ以上の緑の葉柄を伸ばしている。こちらは水芹と呼ばれているが、子供の頃、水辺の芹は「蛭の卵がある」から食べられないと聞かされてきた。威勢良く伸びていたが、決して手を出すことはなかった。後で知ったが、水辺には形がよく似た「ドクゼリ」があった。それを摘まないために子供に分かりやすく注意したのだ。

スーパーの店頭にある芹は、栽培芹（水芹）である。早春の旬を味わうなら野生の田芹の芹摘みから始まり、三大レシピ、おひたし、ゴマ和え（当地ではゴマヨゴシ）芹ご飯に挑戦することだ。特有の香りとシャキシャキという歯ざわりは、早春そのものである。

古事記、日本書紀にもその名が登場し、春の七草としても知られており、冷え症、貧血、便秘、高血圧の予防にるといふ。イヌノフグリが、輝くような紫の花が開き、ナズナが小さな星を散りばめたように真っ白な花を開く、その間にやっと春の気配を感じた芹が少し緑を増している。さあ、子供達と芹摘みに出かけよう。

小泉 浩郎

山崎農業研究所事務局長

y.nouken@taiyo-c.co.jp

---

<読者の声>

---

-----  
●03/11 紀平重成さんから

原田勉様

毎日新聞の紀平です。  
ご無沙汰しています。

近藤先生がお元気なご様子、安心しました。  
先生の何度も復活する気力と体力に驚いています。  
何回も筋力トレーニングのお話が出てきますが  
どんなことをされていますか。

87歳の父は足が弱り、腕の力も落ちて、時々  
起き上がるときに転び頭を打つようです。  
そんな状態でも筋力を維持する方法がありましたら  
ぜひひうかがたいと思います。

「体力が落ちてからの高齢者の筋力維持法」は  
当人や家族など多くの方に希望を与える情報です。

3月11日 紀平重成

----

▽原田からのコメント：高齢者の健康は私自身の問題です。筋力トレーニング  
やボケ防止など、情報を続けて送りたいと思います。（3月14日）

-----

●03/22 藤原 昇さんから:最近の大学農学部と農業

筆者は、40年前、発足したばかりの日本青年海外協力隊に参加した。その後、某国立大学農学部の教師となり、3年前に定年退職した。過日、隊員を募る協力隊事務局長から、最近の大学農学部の実情と農業関係隊員の役割について苦言を呈された。

現在の農学部卒業生は、隊員として役に立たないと言われた。それは、我が国の農学部卒業生は、分子生物学や遺伝子についての知識は持っているが、実際の農業や畜産に関する知識・技術は殆ど持ち合わせていない、ということである。したがって、開発途上国へ派遣する農業関係の隊員は、実際の技術習得のために、1年近く現場での事前研修をする必要があり、時間と金の無駄遣いだ、とのこと。今の農学部の教育・研究の醜態が露呈された。

「農学栄えて農業亡ぶ」という格言は、今も生きているのか、と我が身を振り返って深く反省した。独法化による農学部の改変に大きな期待をかけても無駄であろうか。「もう、国民の血税とは無関係」だ、と開き直られそうで、足もすくんでしまう。

藤原 昇  
福岡女子短期大学・客員教授

---

<山崎農業研究所情報>

---

◇第 116 回定例研究会—耕地としての土と作物—速報（その 2）

2005 年 3 月 5 日 太陽コンサルタンツ会議室 20 名参加

〔講演要旨〕

2. 農業の持続可能性を土からみると

—元茨城大学 岩田 進午氏

土には保水能力があり表面が乾いていてもその下層は水分が一定の状態で保持されている。また酸を加え pH を変えようとしても容易に変化しない。土の物理、化学的安定性は高い。土中の生物相についても単一生物相では十分発達できるものでも、他の存在で制約を受け、安定した生物環境を作りだしている。このような外界変化に対する物理・化学・生物的緩衝能力が土壌環境の急激な変化を押さえている。

土は初めは岩石が風化して細くなり、そこに草が生え、動物が住むようになり、動植物も増え多様性（分岐度指数）は増す。総体の生産量も上がる。草原では多様性のあるものほど乾燥、干ばつにも強い。

林地でも同じことがいえる。単一相は害虫に侵されやすいが、天然林や混成林では安定している。アカマツとヒノキの純林と混成林では混成の方が生産量は高い。これはバイオマス生産量からも測定されている。

自然林の土壌には有機態炭素が多い。これは炭素の循環性が保たれているためであり、田畑土壌でも有機物の多いものが良く、健康であるといえる。良い土が出来るには少なくとも 10 年はかかる。

有機栽培された作物の味・香りは化学肥料による栽培よりも優れている。人体には活性酸素は少ない方が健康によいといわれるが、その活性を軽減させる能力は自然農法による野菜が高く、ビタミン C やベータカロチンの含量でも優れたものが多い。

炭酸ガス同化では、植物の分岐指数の大きいものが多量に吸収し、土壌の有機物蓄積量も増える。砂と粘土の混合体は物理的不均質性を高める。有機物の存在では団粒が形成されやすい。これが生物的不均質性を高める。水素イオン濃度についても、粒子表面近くで高い。pH も場所で異なり、その環境で生物の住み分けがおこる。水分の分布も団粒内と外では異なる。根は外が乾燥しても団粒内から吸水する。土も乾燥で酸化型になっているが、団粒内部は還元型である。このようにさまざまな状態が不均質となって、それぞれの多様化が進む。土中空間の不均質性が生物多様性を増すことにつながる。

現代農業は自然の摂理に逆らっている。森林と異なり、農業は生産物を物質循環の系から取り除いて（収奪して）多様化を無くしている（動植物・微生物相の単純化）。だからこの不足を修復しなくてはならない。化学肥料は土壌も作物にも非多様化の状況を作りだす。病原菌も大量に発生しやすくなる。IRRI の報告によれば、インドネシアではウンカ発生が自然農法のところで、はるかに少なかった。

地域はその地域で食料を生産することが望ましい。昔は 10t/ha の堆肥が必要といわれていた。これを補給するには農家は苦勞した。自然農法が出来る面積限界は 2 ha 程度で、それ以上では現状では、持続可能な農業はむづかしい（世界 NGO 会議、地球白書 2005）。

リービッヒはじめ多くの優れた研究者も土壌の環境問題を深く考えなかった。

土中への有機物の供給は多様な微生物の働きを保つために欠かせない。食べる人の健康を守る農業になっていない。自然はまだわからないことが多い。今後これに謙虚になって、さらなる研究が望まれる。このためには農業生産と環境の共存という新しい価値観の導入が必要である。(文責：安富六郎)

---

## <80才からのメッセージ> 超高齢を目指していかに生きるか

---

3月21日、誕生日を迎えた。主治医から、「傘寿ですね、おめでとう」とお祝いの言葉をいただいた。難病を抱えてよくぞここまで生きてこられたという意味が込められている。

本当に、ここまで生かして頂いたことに感謝しなければならない。第一に、目に見えない自然の力・神仏のおかげである。

第二に、産み育ててもらった父母、兄弟、姉妹のおかげである。そして多くのことを教えていただいた恩師、先輩、朋友のおかげであり、さらに重要な家族の支えで生きてこられたのだと思う。

私は、80歳までとても生きるとは思わなかった。

第一に、1945年、軍隊に召集されて明日をも知れぬ戦争の中で、長い命ではないと思った。

第二に、戦後占領期に、メーデー事件など、混乱に巻き込まれ、その遠因で入院・手術など十数回で死ぬ目にも会った。

70歳を過ぎてからは、昔の輸血による肝炎、脳出血、多発性骨髄腫で余命3年の宣告を受けた。

しかし、現在まだ生きている。本当に皆様のおかげと感謝している。

さて、80歳を過ぎて、これからの人生をいかに生きるか。

人間の寿命は、誰にも予知できない。私もいつまで生きるか分からない。しかし生きている限り、何か、人のため、社会のため、役に立ちたい。今までジ

ジャーナリストとして情報提供を使命としてきた。今後は取材の幅も深さも不十分であるが、高齢者としての立場から、できる範囲での情報提供をしていきたい。

今後も、農文協図書館に週三回は通勤して、高齢者の健康問題や、老人の社会的・心理的問題を勉強し、読み、書くために考え、自分のためにも呆けないように努めたいと思う。

これからの課題は、人間はいかに衰えるか、死に至るまでの生態を、自分を実験台として観察し、老化予防によって、どこまで元気に長生きできるかのウォッチングをすることである。とくに85歳以上の超高齢者の4人に1人は、痴呆になると言われている。それをどうやったら防げるのか、を追究してみたいと思う。

すでに106歳になられる近藤康男先生の先例もあることだし、このための情報提供を自分の使命としたいと思う。

山崎農業研究所会員・『電子耕』編集同人

原田 勉

<http://nazuna.com/tom/>

---

<日本たまご事情> コレステロールはやや高目が長生きする

---

新聞協会賞の読売新聞記者による「コレステロール常識」ウソ・ホント（講談社 BLUEBACKS 田中秀一）を購入読んでみた。そこにはコレステロールをめぐる医者と製薬会社のまったく腹ただしいことが書いてあった。

新聞記者はともすれば物事を大げさに書くきらいがあるが、それを差し引いても最近の知見をもとに事実をつきつけた主張には迫力がある。金の亡者のような医者と製薬会社がいる一方、真面目に事実を積み上げいまのコレステロール診断基準値（220mg/dl）の間違いを指摘している先生方も紹介している。

いままで新聞記者にとって製薬会社の悪口を書くことは広告の大スポンサー



としてタブーであったに違いない。何がおきたのか知らないが、このところ読売、朝日両新聞が立て続けに大きくこの問題をとりあげている。

いずれもコレステロール血中濃度 240-250mg/dl が総合的に長生きでき、現在の診断基準 220mg/dl はいたずらにコレステロール降下剤の投薬量をふやし、医者と製薬会社の儲けを増やすだけで国民のためになっていないというものだ。

もう一つ驚くことが書いてあった、れっきとしたデータ（日本脂質介入試験 J-LIT）の分析によって、「これまで高コレステロール血症の患者に対しては動脈硬化の予防を目的に、コレステロール値を低下させる食事療法がよく行われてきた。しかしこれは無効どころか有害であることがわかった」（浜崎智仁 富山医科薬科大学）とあった。

たまご屋だから云うのではないが、いままで卵を目の仇にしてきた食事療法とは一体なんであったのだろうか。健康診断でコレステロールがやや高めといわれた人は是非この本を読んでほしい、あなたは一番長生き出来るのです。

齋藤 富士雄  
(株) 愛鶏園

<http://www.ikn.co.jp/>

---

#### <高齢者の健康情報>

長寿社会を生き抜くために【1】家族・友人・隣人-社会面から-

---

東京都老人総合研究所（財団法人 東京都高齢者研究・福祉振興財団内）の調査によると、85歳以上の超高齢者も意外に元気で長生きしておられる実態がわかりました。

「老年学」的にみた年齢による高齢者の区分は次のように考えられます。

(注\* 老人保険医療制度の同様呼称とは整合しません)

65歳から 74歳：前期高齢者 (young old)

75歳から 84歳：後期高齢者 (old old)

85歳から 99歳：超高齢者 (super old)

100歳以上：百寿者（英語では、1世紀(century)を生き抜いた人という意味で、センテナリアン(centenarian)と呼ぶ)

110 歳以上：超百寿者（super centenarian）

（注＊内閣府の『高齢社会白書』

<http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html>

の、平成 16 年度『高齢社会白書』から。

「65 歳以上の高齢者人口は、平成 15（2003）年 10 月 1 日現在、2,431 万人であり、このうち、男性は 1,026 万人と初めて 1,000 万人を超えた。

総人口に占める高齢者の割合（高齢化率）は 19.0%となっている。高齢者人口のうち、前期高齢者（65～74 歳）人口は 1,376 万人、後期高齢者（75 歳以上）人口は 1,055 万人となっている。

なお、全国の 100 歳以上の高齢者は、平成 15（2003）年 9 月現在で 2 万人を超え、わずか 5 年で倍増している。」

現在、百寿者は 2 万人以上で、近藤康男先生のように 106 歳でもお元気ですし、私のクラスメイトにも百寿者になれる人が 2～3 人は予想されます。夢ではないのです。

そこまでいなくても、多くの同期生が 85 歳以上の超高齢者になるのは確実と思われまます。

高齢になっても元気に長生きするために、何をしたら良いのか。老人総合研究所の調査によると、大切なことは、次の通りです。

■ 1，月 1 回以上の外出と、グループ・集会などへの参加です。

外出は、買い物や散歩、ラジオ体操などへの参加、通院、友人との交流、グループ活動への参加などが、健康と幸福感の維持につながります。とくにグループ活動は、趣味や学習会、老人会、クラス会など自分の関心のあることに参加することによって、高齢期を生き生きと過ごすことができます。

■ 2，週 1 回以上の友人や近所の人との交流が、家族よりも幸福感を高めます。

友人は、趣味や余暇活動をいっしょにしてくれる人や、心配ごとを聞いてくれる人、買い物や食事を共にしてくれる人など、家族との関係に比

べて義務的な要素が少なく、友人と共に社会活動の中に生きがいを見つけ出すことができます。

■ 3、超高齢者を支援するのは家族が中心です。

85歳以上の高齢になると、友人も少なくなり、外出の回数が減り、グループ活動への参加も少なくなります。また、身体の老化が進み障害も多くなります。その時、通院の付き添いや家事の援助をする人は家族が中心になります。

心配ごとや困りごとを聞いてくれる人も第一に家族が多くなります。配偶者、子ども、嫁などの支援がぜひ必要です。それに備えて若い世代との付き合いを準備しておくことが大切です。

■ 4、老いを前向きにとらえる姿勢。

最後に一言付け加えるとすれば、「老いを前向きにとらえる」という姿勢こそが、社会面から、超高齢期をいきいき過ごすためのコツといえます。自らの老いに対する肯定的な評価は、グループ参加や友人との楽しい交流の結果として強められる一方で、そのような前向きさが次の行動への原動力にもなります。それが、後輩世代に将来への希望や安心感を提供することにもなります。

次回からは、身体面からの体力づくりのコツ、呆けないコツを考えてみましょう。

(以上は、東京都老人総合研究所「第75回 老年学公開講座資料集・長寿社会を生き抜く！ -85歳までのコツ、85歳からのコツ-」300円＋税を参考にしました。)

第75回 老年学公開講座（平成15年12月4日）

タイトル「長寿社会を生き抜く！ -85歳までのコツ、85歳からのコツ-」

[http://www.tmig.or.jp/J\\_TMIG/kouenkai/koza/75koza.html](http://www.tmig.or.jp/J_TMIG/kouenkai/koza/75koza.html)

財団法人 東京都高齢者研究・福祉振興財団

<http://www.fukushizaidan.jp/>

東京都老人総合研究所

[http://www.tmig.or.jp/J\\_TMIG/J\\_index.html](http://www.tmig.or.jp/J_TMIG/J_index.html)

「研究所では各種の出版物を発行しております。

このうち価格表示のあるもののみ販売しております。

ご購入や非売品の閲覧等についてはお問い合わせ下さい」

[http://www.tmig.or.jp/J\\_TMIG/books/syuppan.html](http://www.tmig.or.jp/J_TMIG/books/syuppan.html)

老年学公開講座講演集一覧

[http://www.tmig.or.jp/J\\_TMIG/books/koukaikouza.html](http://www.tmig.or.jp/J_TMIG/books/koukaikouza.html)

《出版物についてのお問い合わせ先》

郵便番号 173-0015 東京都板橋区栄町 35 番 2 号

東京都老人総合研究所 研究調整部 広報・普及担当

電話：03-3964-3241 内線：3008

E-mail：office@tmig.or.jp

・できれば出版物の情報をご覧になったページの URL もお知らせ下さい。」

と、「あるのでメルマガ『電子耕』で見た」と伝えてください。

山崎農業研究所会員・『電子耕』編集同人

原田 勉

<http://nazuna.com/tom/>

---

#### <ミニ解説>農業・農村の組織とその役割（6）—土地改良区—

---

昭和 24 年に制定された法律に土地改良法があります。本法は、農地の区画整理（通称：圃場整備）、農業用排水施設や農道などの新設・変更、管理などを行う土地改良事業を実施するために必要な事項を体系的に定めております。

土地改良区は、この土地改良事業を実施することを目的として設立される団体で、15 人以上の農業者である事業参加者が一定の区域を定め、知事の認可を受けることで成立するものとなっています。地区内の土地についての事業参加者は、その時にこの土地改良区の組合員となります。

こうして誕生した土地改良区の規模は、現在、地区面積が 50ha 未満といった小さいものから 1 万 ha 以上と数市町村にまたがるような大きいものまで多岐に

わたくし、全国の概数は7千ということです。そして、専従職員が置かれて、農業用用水施設等の土地改良施設の維持管理を主に、基本業務として

- (1) 土地改良施設の物的な維持管理
- (2) 利水調整・洪水防止等を行う土地改良施設の技術的な操作
- (3) 賦課金、負担金の徴収確保

等を行っている土地改良区が一般的であるようです。組合員である農家は、組織のオーナーであるとともに業務の受益者である、ということになります。

土地改良区は、全国組織（略称：全土連）を持っており、「環境との調和への配慮」といった土地改良法の改正とも軌を合わせて、平成14年度から愛称を「水土里ネット」と決めました。そうして、“これまで果たしてきている土地改良区の役割は国民共有の財産である美しい農村の基礎となっていると評価するとともに、住民とより一体となった取り組みの運動”を目指しています。

このことは、農村定住者が広く土地改良区の役割に対する理解を持たれ、運動への協調の輪に加わられることへの期待、を言っているものでもあります。

石川 秀勇  
山崎農研会員、野田市在住  
y.nouken@taiyo-c.co.jp

---

<推薦図書>詩集『地球の影が横切ってゆくとき』（山根千恵子著）

---

第150号<農文協図書館情報>で既報の  
地域に根ざした食育コンクール2004表彰事例  
<http://www.ruralnet.or.jp/shokuiku/2004/jusho2004.html>

の◆優秀賞（農林水産省 消費・安全局長賞）のひとつ  
幕別町立途別小学校（教育分野）北海道中川郡  
『とべっ子ふるさとレストランー三世代立体交流型の食育活動ー』  
[http://www.ruralnet.or.jp/shokuiku/2004/jusho2004\\_03.html](http://www.ruralnet.or.jp/shokuiku/2004/jusho2004_03.html)

は、とても小さな学校だそうですが、そこで事務職員として働く山根さんも、コンクール応募に際して尽力されたおひとりです。

NHK 食料プロジェクト：こども体験隊ネット：幕別町立途別小学校 1～6年生

<http://www.nhk.or.jp/shokuryo/taikentai/hokkaido01/01.html>

のページも彼女が制作の主体になって作られたものだそうです。

その山根さんが、今回、2冊目の詩集を自費出版されたのでご紹介します。

詩集『地球の影が横切ってゆくとき』

著者：山根千恵子（北海道芽室町）詩誌『不羈』同人

### ●目次

りんごのジャムを煮るときは

カレー処方

レタスのサラダについて

クルミの木

八月の旅人

アイヌプリ／やさしいばあちゃんのように抱きしめる

ホルホグを食べる

野へ けもの いき

けもの息 遊ぶ 岩の夢

けもの息 薄明

草原で

草 いき

白い月

WEB TREE

地球の影が横切ってゆくとき

水の中のかみさま

冬利尻

黒髪の見知らぬ人が

---

北海道の女性ならではの、宇宙、地球、自然、アイヌ、料理などをモチーフに綴られた詩集です。

紹介文のかわりとして、一遍を了解を得て一部転載します。

---

「レタスのサラダについて」

土を耕す  
棟は低く、水を浅く  
かぶせる土は薄く  
そして待つ  
待っている間に  
雨が降りすぎないかと気にする  
強い風が吹きすぎるのではと心配する  
そして待つ

やがて、うまくいったら  
双葉が土くれを押し上げて出てくる  
濃い緑の葉がバリリとなったら  
摘み取ってサラダにする

(中略：かんしゃく持ちなのを役立てながらサラダを作ってかみしめる)

昨日と今日の天気をおもいだす  
流した汗と爪の間の土をおもいだす  
太陽と葉っぱとの関係におもいをはせる  
太陽と葉っぱと土と虫との関係におもいをはせる  
太陽と地球とその地球に生きる生き物の関係に  
おもいをはせる

--- (了)

頒布価 2000 円 + 送料 210 円  
お申し込み詳細は  
原田勉  
tom@nazuna.com

まで、ご一報ください。

---

<編集後記・同人の近況報告> 3月9日～3月23日

---

昨日（3月20日）、今度は福岡県西方沖で大きな地震が発生しました。福岡市西区の玄界島では多くの家屋に被害が生じ、余震もなお続いています。まずは、現地の皆様にお見舞い申し上げます。

農と自然の研究所の代表理事である宇根豊さん（福岡県二丈町在住。前号の編集後記では「専務理事」と誤って表記してしまいました。失礼いたしました）と電話で話したところ、二丈町の自宅では棚のものが落ちてきたくらいで特に大きな被害はなかったといえます。それでも、普段、地震とは縁遠いと思われていた地域での出来事だけに、その大きな揺れにはたいへんおどろいたそうです。

宇根さんとの話のなかで、「水と安全はタダ」という、これまで当たり前のようにならされてきたことが“ウソ”であるということが話題になりました。日本はまごうことなき自然災害大国です。その災害となんとか折り合いをつけながら農家・林家は営々と農や林の営みを続けてきた——そんなことを話しました。

本メルマガと姉妹関係にある、山崎農業研究所所報『耕・春号』（最新号）では「災害復興」をテーマに特集を組んでいます。

「新潟県中越地震からの復興」（高濱信行氏・新潟大学積雪地域災害研究センター）、「阪神淡路大震災と新潟県中越地震」（兒玉明人氏・元中国農業試験場）、「地域防災から集落防災へ」（井尻吉門氏・水土里ネット鹿児島）、「自然災害に強い山をどうつくるか」（鋸谷茂氏・福井県）など力作ぞろいです。

関心のある方は、 [y.nouken@taiyo-c.co.jp](mailto:y.nouken@taiyo-c.co.jp) までお問い合わせください。

（山崎農業研究所会員・田口 均）



---

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

---

- 1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
- 2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
- 3、1回1テーマ、10行位に。
- 4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
- 5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

---

◎投稿アドレス変更のお知らせ

---

電子耕への投稿アドレスは、発行人の変更に伴い、

[y.noken@taiyo-c.co.jp](mailto:y.noken@taiyo-c.co.jp)

となっております。投稿される方はこちらのアドレスをお願いします。

-----

次回 156 号の締め切りは4月4日、発行は4月7日の予定です。

---

★『メールマガジンの楽しみ方』発売中

---

書名：岩波アクティブ新書 45 『メールマガジンの楽しみ方』

著者：原田 勉 定価：735 円 発行日：2002 年 10 月 4 日

発行所：岩波書店 ISBN4-00-700045-X

まえがき・目次・著者紹介・注文方法はこちら

<http://nazuna.com/tom/book.html>

---

『電子耕』から大切なお知らせ

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

[http://www.taiyo-c.co.jp/public\\_html/yamazaki/yama\\_mailmag.html](http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_mailmag.html)

<本誌記事の無断転載を禁じます>

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 155 号

バックナンバー・購読申し込み／解除案内

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

[http://www.taiyo-c.co.jp/public\\_html/yamazaki/yama\\_mailmag2.html](http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_mailmag2.html)

2005.03.24（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:y.noken@taiyo-c.co.jp>

\*\*\*\*\* ここまで『電子耕』 \*\*\*\*\*